

拝啓 益々御清栄の段大慶に存じます。
その後貴国の原子力平和利用が着実に進展して居ることを知り、隣邦の私としても意を強くして居ります。

さて、先般貴国において開かれた韓日閣僚会議の際、当方より出席した中曾根科学技術庁長官兼通商産業大臣に対し、貴国閣僚から非公式に原子炉使用済燃料再処理工場を両国の共同事業として貴国内に設置する御提案がなされたように仄聞して居りますが、その点について貴下は何か御承知でしょうか。

この問題に就ては昨年来貴下と私との間に若干の意見交換がありました関係から、私は貴下から非公式の問題として貴国側の情報に就てもう少しくわしいことを知りたいと思ひます。

中曾根大臣に対する貴国側の御申入は勿論非公式のことと思ひますが、若し日本側が何等かの形においてさらに具体的な内容に就て検討したいという希望を持ちますならば、貴国側においてそれを受入れられる御用意があるかどうかの貴下の個人的な御判断又は御予想を知りたいのです。

当方の次期再処理事業は一応民営と考えられてはいますが、まだ確

定はしていません。日本原子力産業会議としては、近くその計画に

当方の次期再処理事業は一応民営と考えられてはいますが、まだ確

定はしていません。日本原子力産業会議としては、近くその計画について検討する委員会を設置したいと考えて居ります。若し両国の共同事業としてやる場合、その方式、即ち出資その他の条件など貴国側ではすでに検討をなされて居るでしうか。なお、現在日本で考えられている才二処理工場（一日五トン処理の規模でしう）の敷地は、技術的に見て立地条件にもよりませんが、海岸で面積は約一〇〇万平方米位を必要とするらしいようです。

私のこの書翰は政府は勿論日本原子力産業会議としても合意を得てゐるものでなく、単なる私的なものであることを重ねて申し添えます。従つて、極めて総括的な条件についてでも貴国側の情報について貴下の個人的な御考えを知らせて下されば幸甚に存じます。

敬具

昭和四十七年九月十四日

日本原子力産業会議

橋本清之助

韓国原子力産業会議

朴益洙殿